

# 研究の現場から

道德科学研究センターの  
研究動向

## モラルサイエンスの 研究拠点形成に向けて

### — 新たな企画のスタート

道德科学研究センター人間学研究室長、コロキウム・シンポジウム委員長

川久保 剛

道德を中心に、人間の生き方や社会のあり方を考える学問分野を、モラルサイエンスといいます。モラロジーは、そのモラルサイエンスの一つの学説といえます。

「学説が一つしかない」という学問分野は存在しません。それでは学問として発展しないからです。複数の学説を戦わせることで、学問は発展します。

モラルサイエンスも同様です。学問分野としての発展を期して、新たな学説をどんどん創造していかなければなりません。モラロジーだけを研究しても学問的展望は開けません。むしろ、新たな学説をつくって、それをモラロジーと

ぶつける努力をしなければなりません。それによって、新たな学説もモラロジーも共に磨かれ、全体がレベルアップします。

モラロジー研究所の研究部門である道德科学研究センターは、そのような問題意識に立って、新たな学説をしっかりと創造し、モラロジーという一学説だけではなく、モラルサイエンスという学問領域そのものをリードすべきでしょう。それでこそ、モラルサイエンスの真の研究拠点となることができます。そのためには、内部の研究員だけで研究しているは駄目なのです。むしろ、モラロジーの学説を共有しない外部の研究者の新たな視点

が必要で。それゆえ、外部の研究者とも広く連携しながら、共同で研究を推進する体制づくりが課題となります。

そこで道德科学研究センターでは、今年度から「モラルサイエンス・コロキウム」と称する新たな取り組みを開始しました。これは、現代の学問課題や社会問題について、外部の研究者と内部の研究員が、モラルサイエンスの視点から一緒に考え、議論する共同研究会です。今年度は年間三回の開催を予定しています。第一回は「分断社会」とモラルサイエンス（六月十九日開催）、第二回は「震災復興」とモラルサイエンス（十月九日）、第三回は「地



方消滅」とモラルサイエンス「令和二年二月十二日」というテーマで、毎回外部の有力な若手・中堅研究者を複数名招いて開催します。

このような取り組みの中から、現代の文明的・社会的状況と学問的成果に対応した新たなモラルサイエンスの学説が生まれ、最終的にそれらとモラロジーが統合され、モラルサイエンスにより高次の全体的統一がもたらされれば、道德科学研究センターは、自他共に認められるモラルサイエンスの研究拠点となるでしょう。